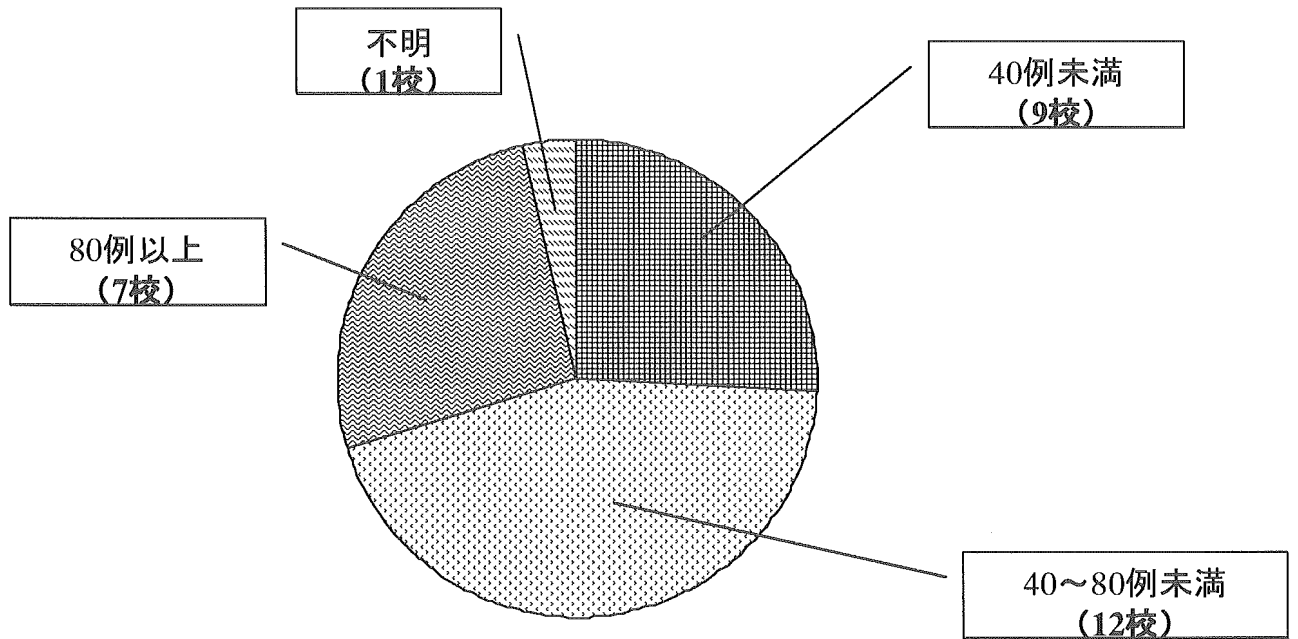


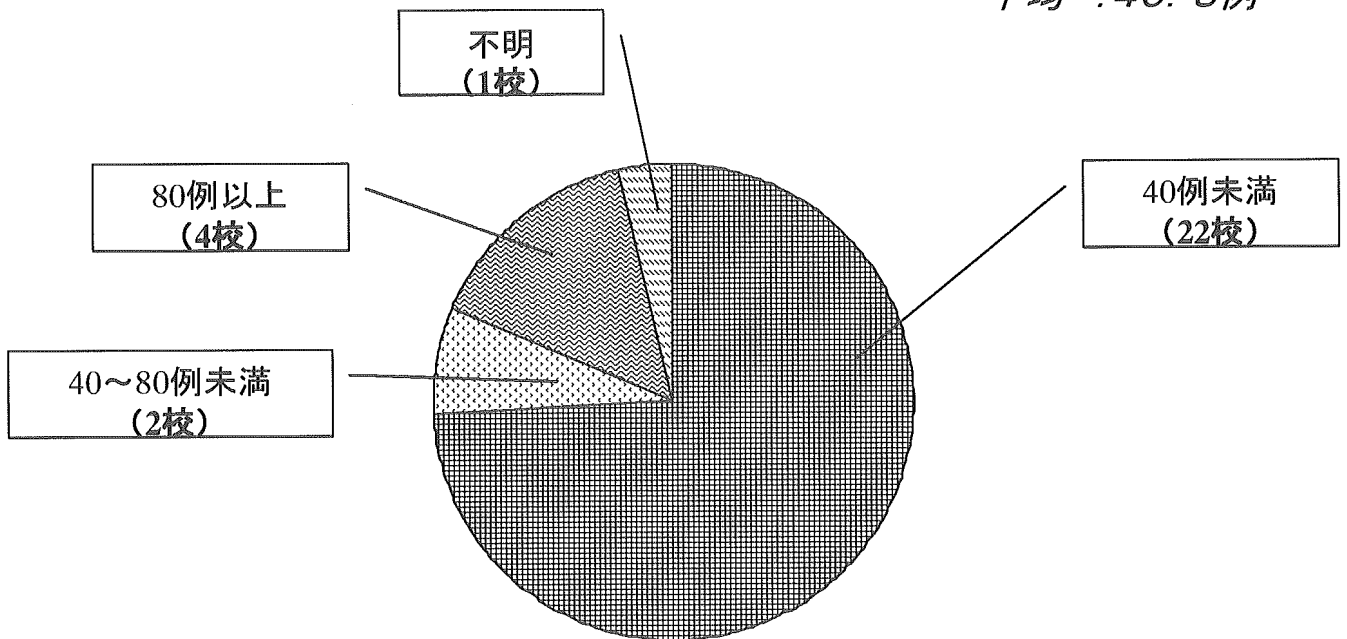
外科的顎矯正手術症例数

総症例数: 2100例
平均 : 72.4例



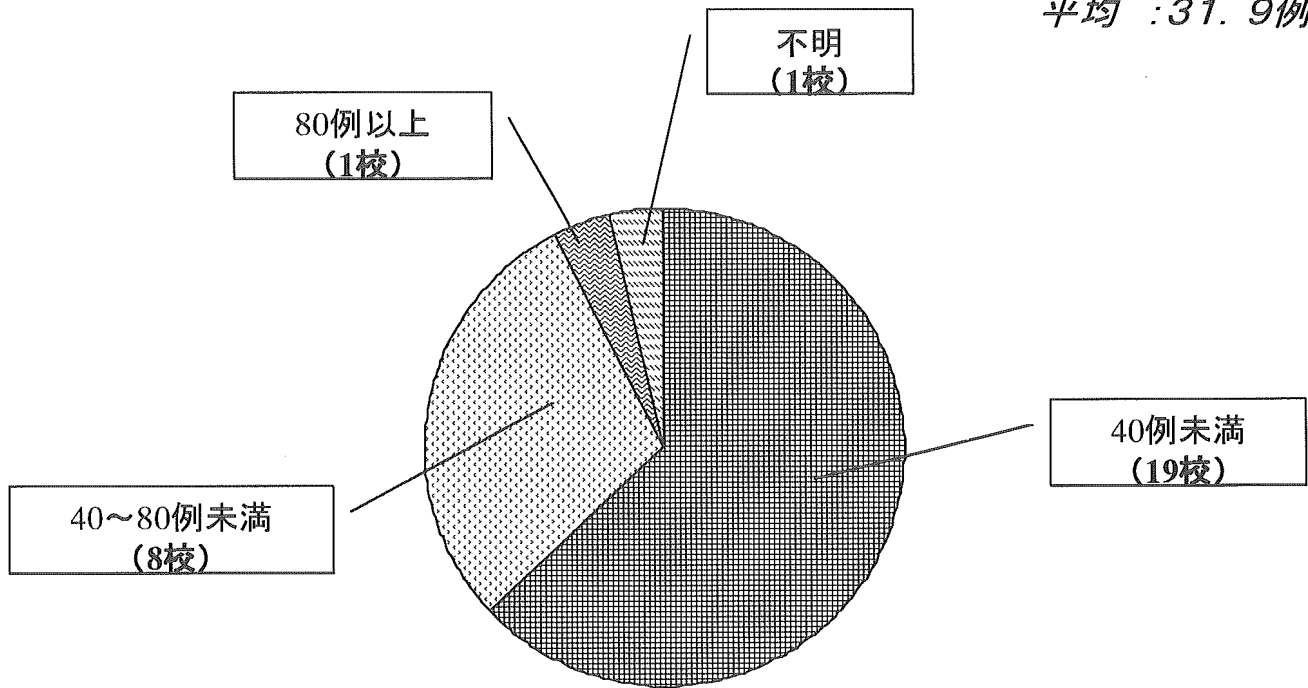
口唇口蓋形成手術症例数

総症例数: 1183例
平均 : 40.8例



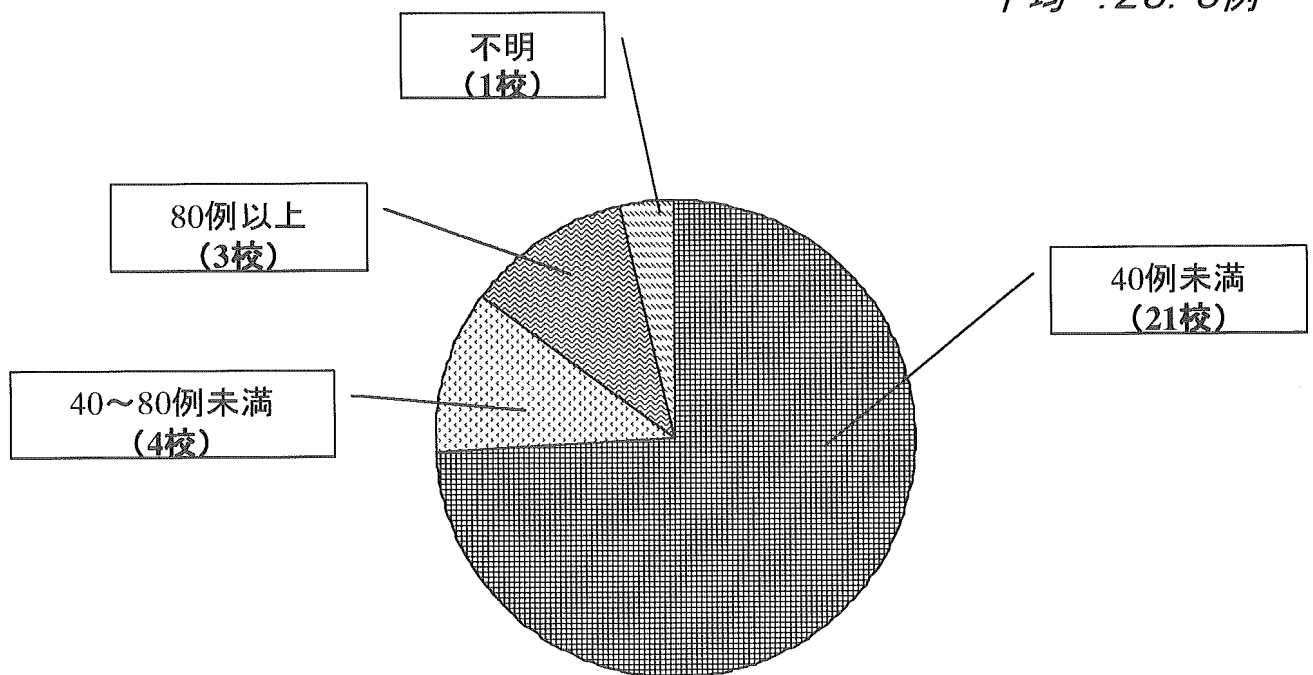
良性腫瘍手術症例数

総症例数: 926例
平均 : 31.9例



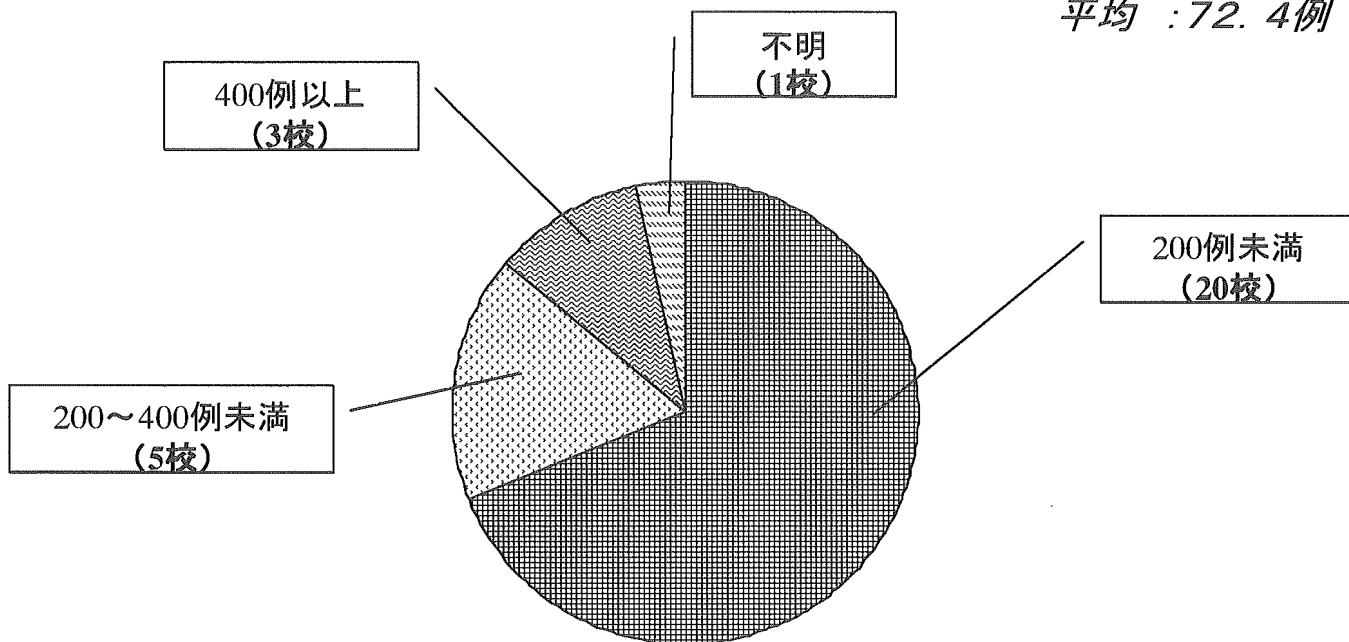
心身障害者の歯科治療症例数

総症例数: 771例
平均 : 26.6例



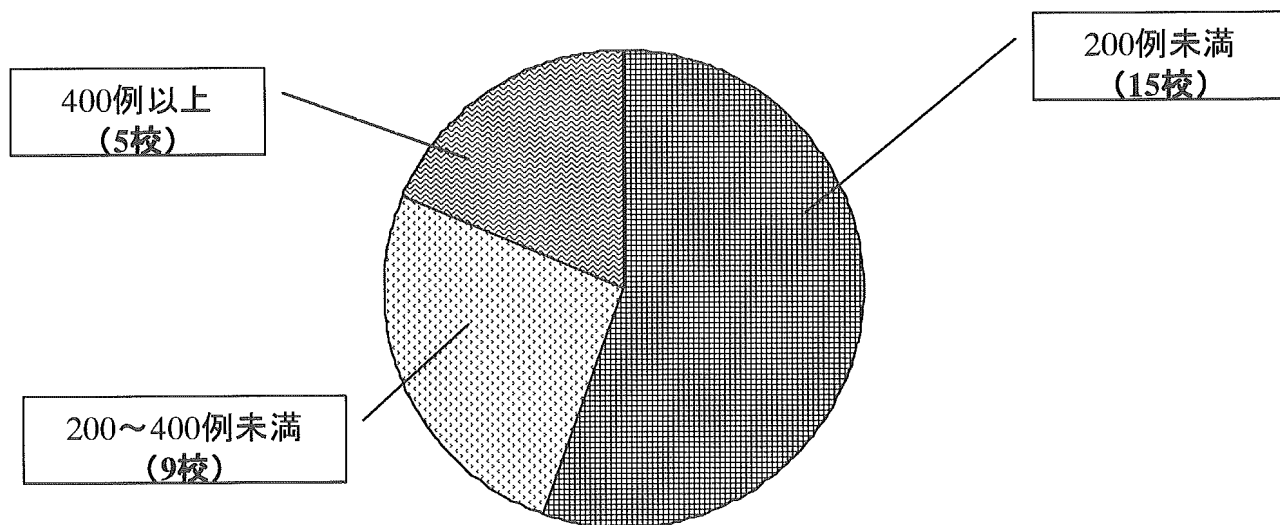
その他症例数

総症例数: 2100例
平均 : 72.4例



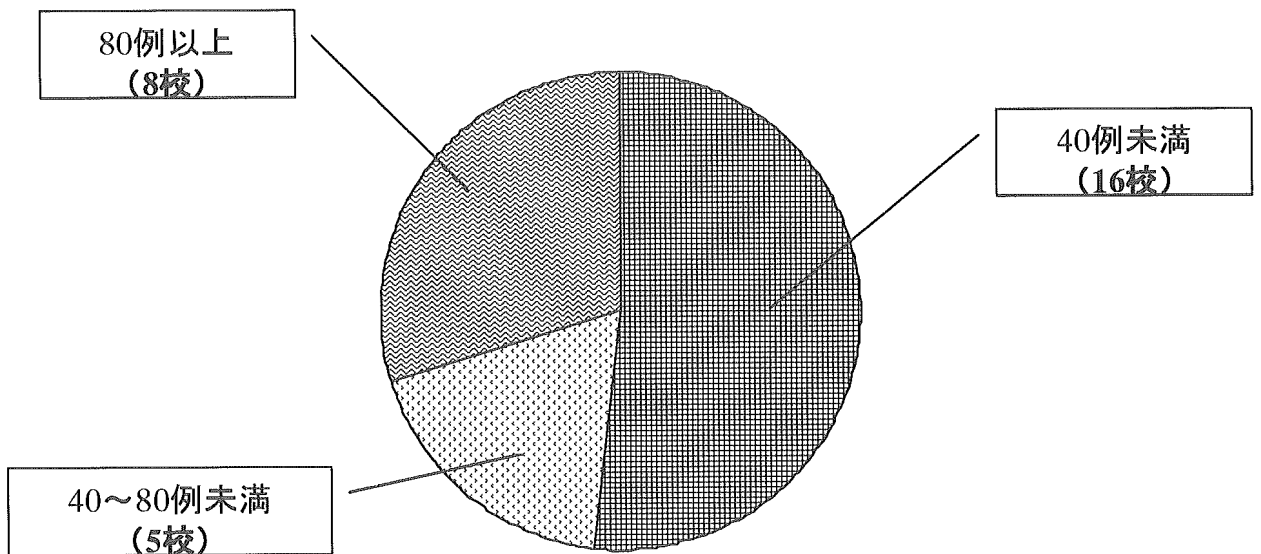
静脈内鎮静法施行症例数

総症例数: 7230例
平均 : 249.3例



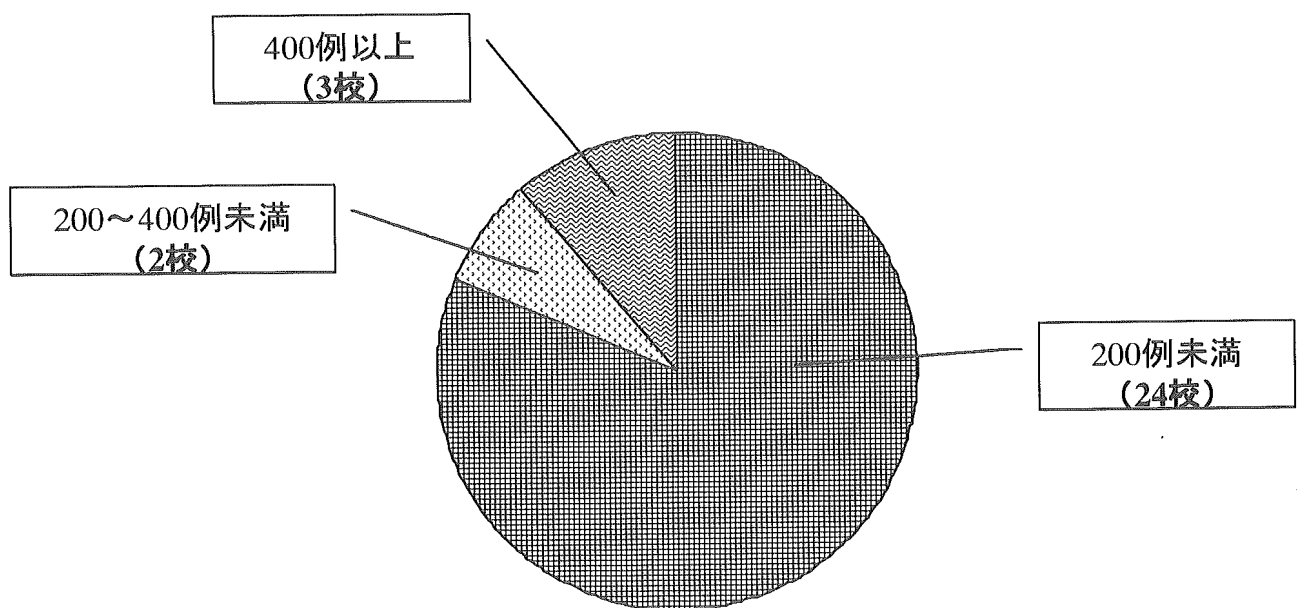
笑気吸入鎮静法施行症例数

総症例数: 1786例
平均 : 61.6例



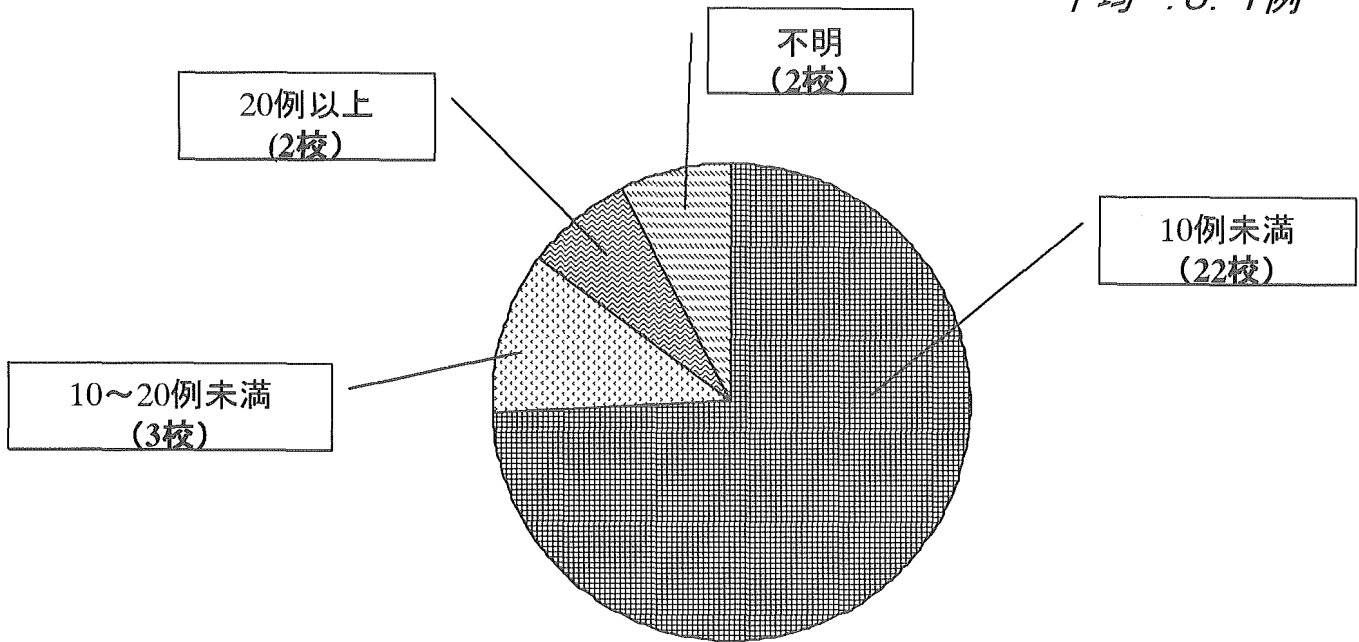
モニタリング施行症例数

総症例数: 3514例
平均 : 121.2例



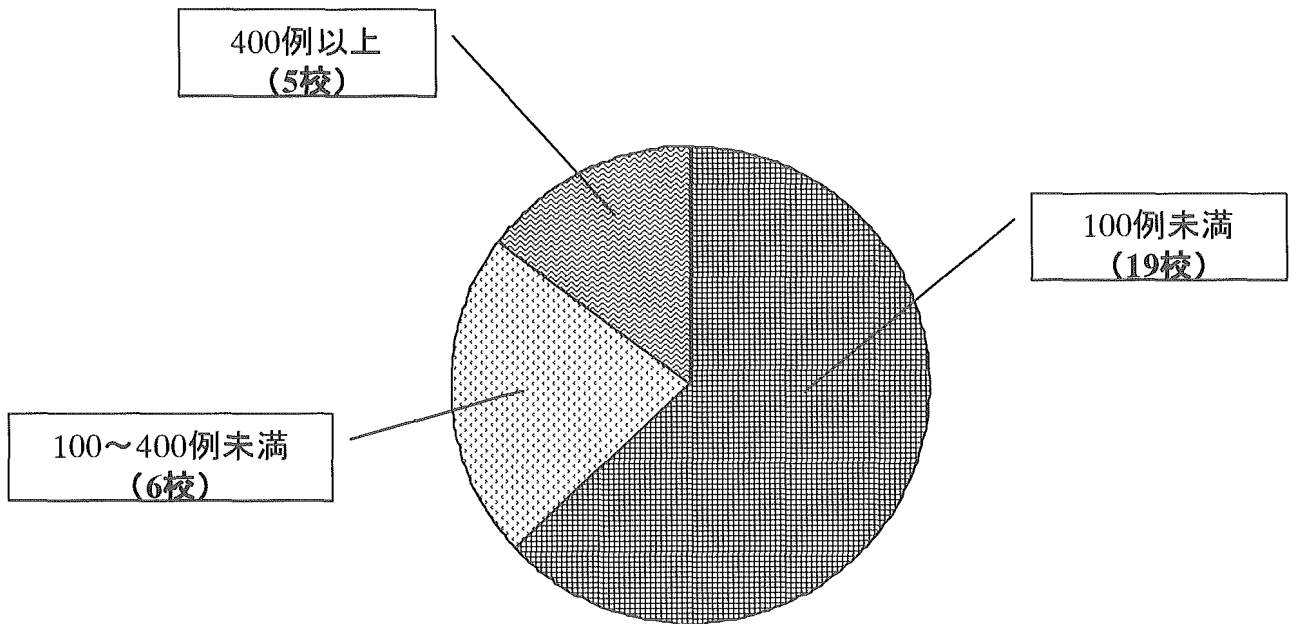
院内救急対応症例数

総症例数: 178例
平均 : 6.1例

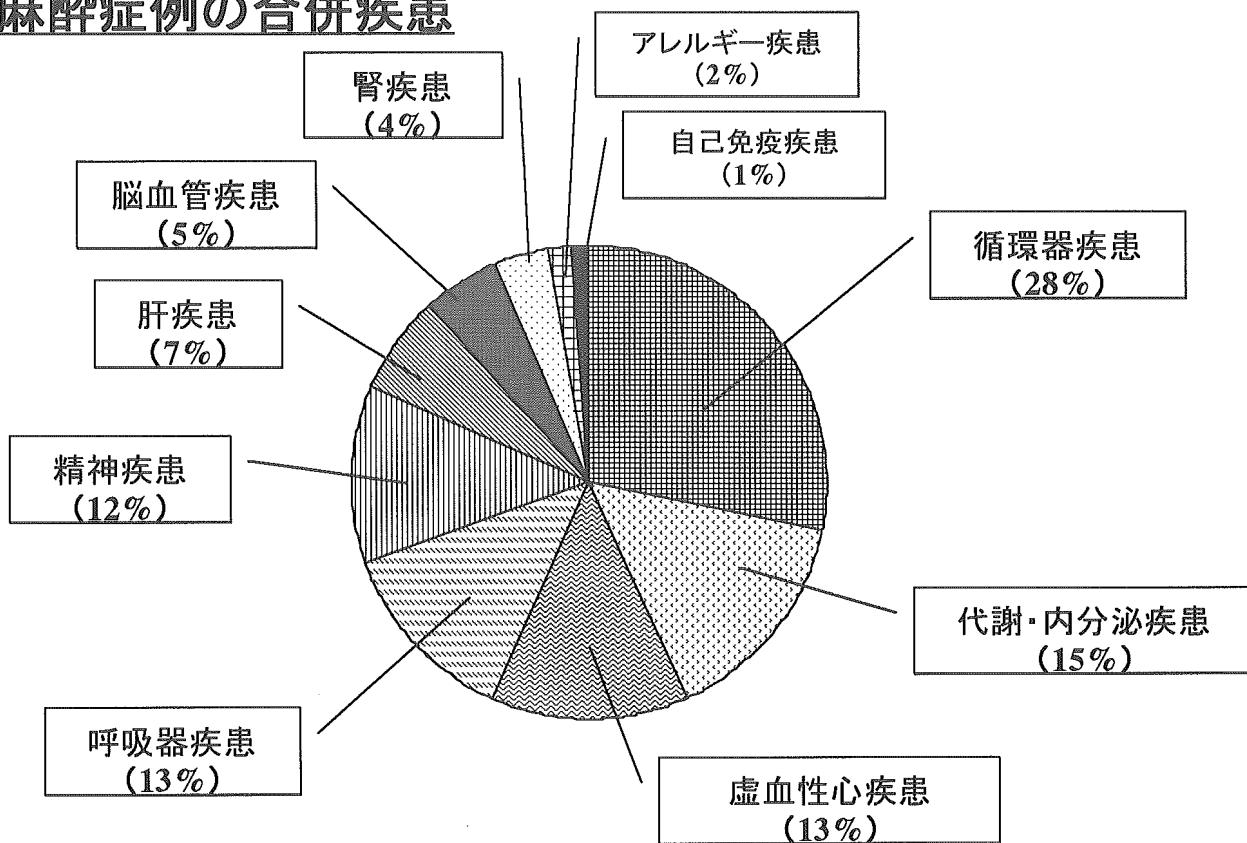


神経ブロック施行症例数

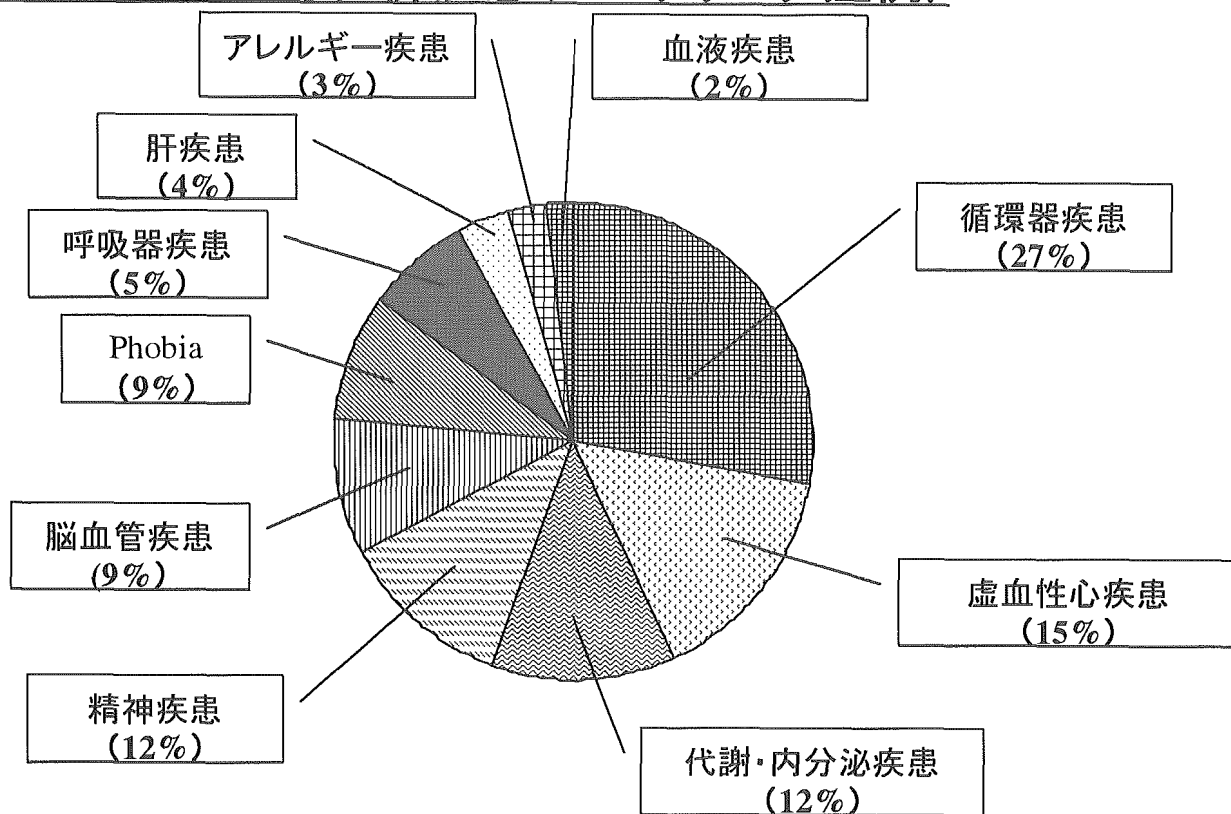
総症例数: 7787例
平均 : 268.5例



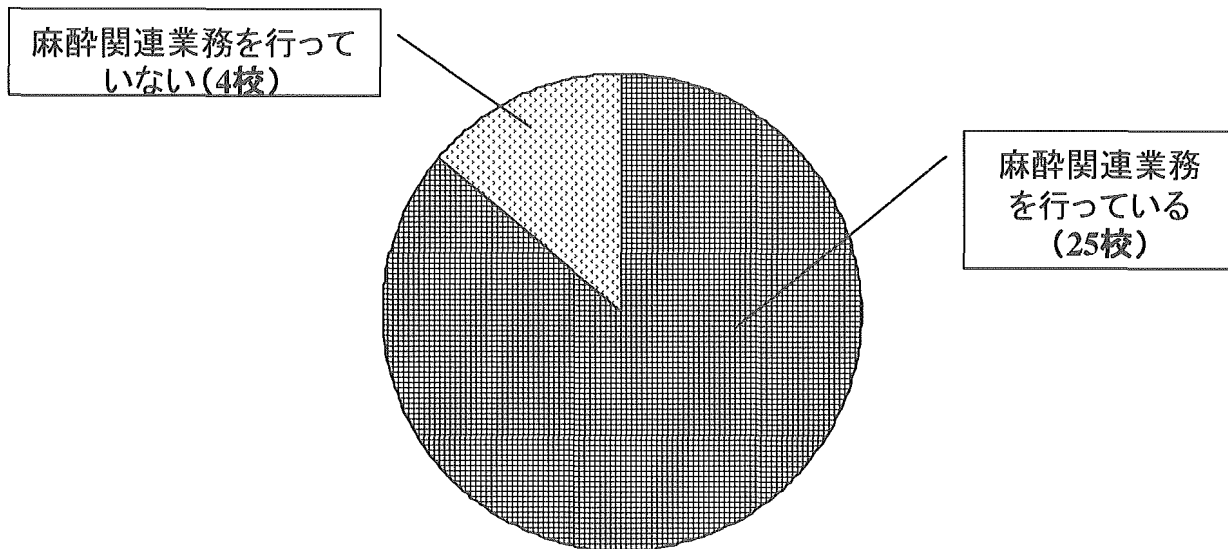
全身麻酔症例の合併疾患



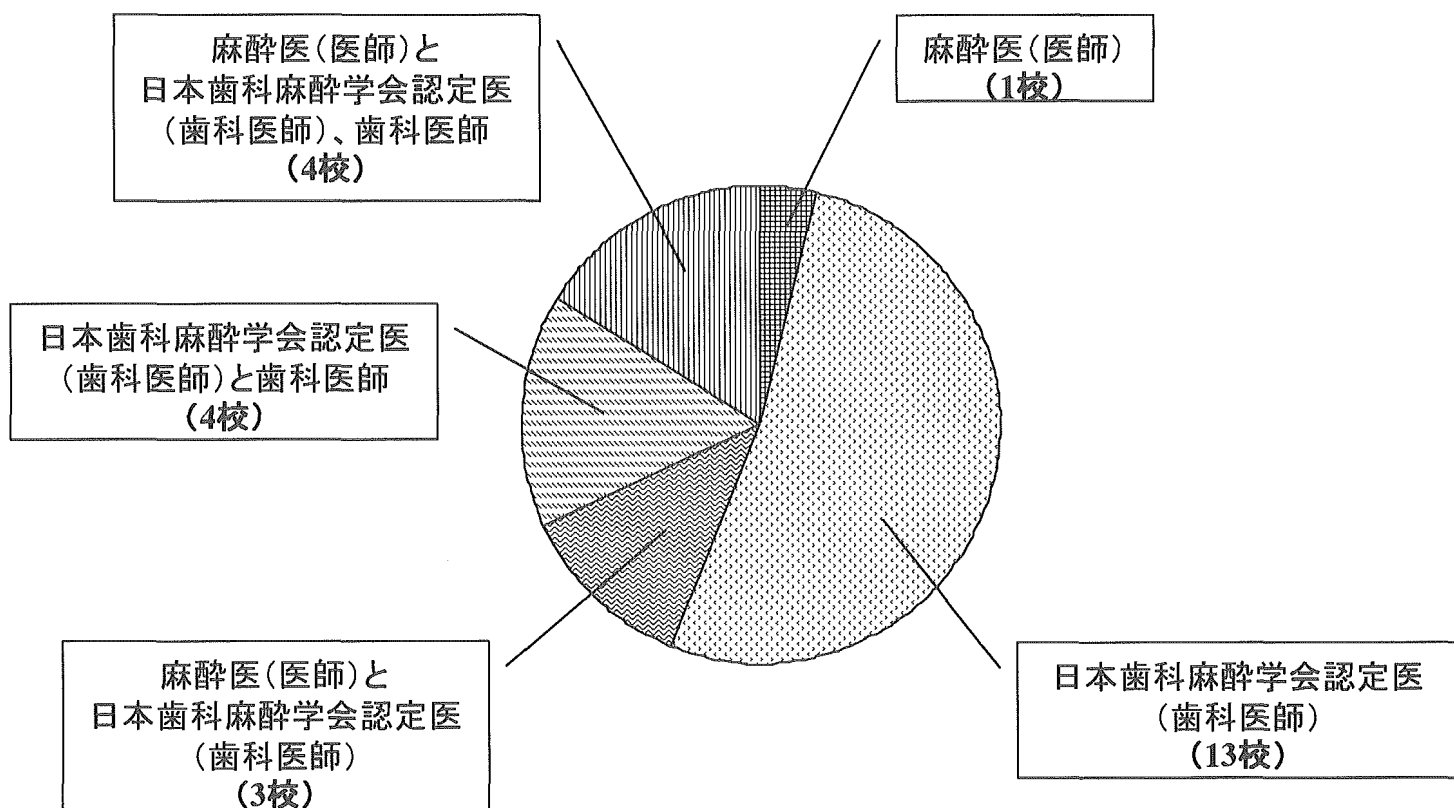
頻度の高かった全身合併疾患(モニタリング症例)



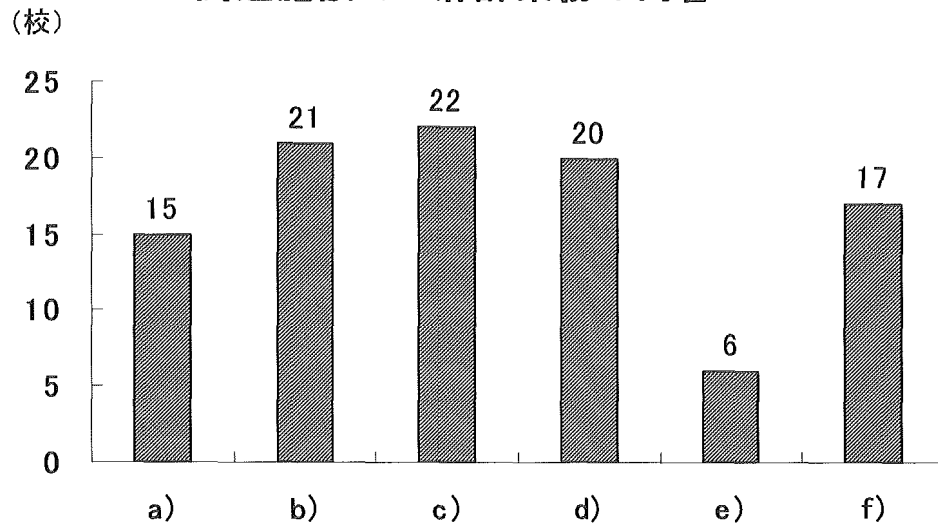
関連施設での麻酔関連業務の実施の有無



関連施設での麻酔関連業務の実施者

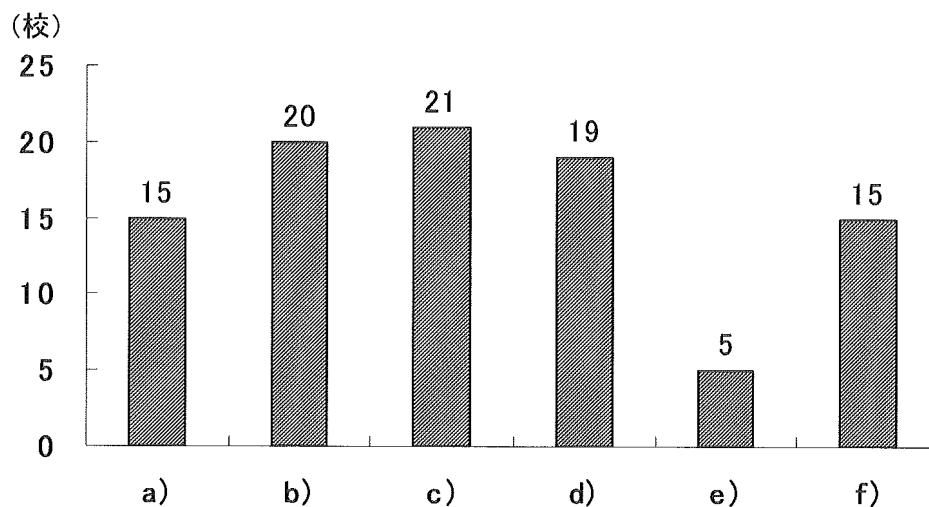


関連施設での麻酔業務の内容



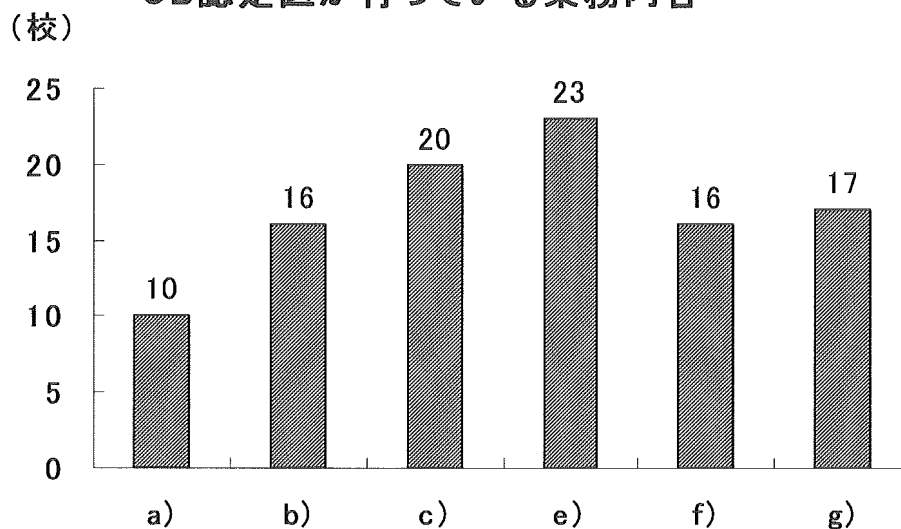
- a) 口腔外科手術の全身麻酔
- b) 障害者の歯科治療の全身麻酔・精神鎮静法
- c) 歯科治療(抜歯・インプラントを含む)の静脈内鎮静法
- d) 有病者・高齢者の歯科治療時の全身管理(モニタリングを含む)
- e) 在宅歯科治療時の全身管理
- f) 有病者・高齢者の全身状態評価

認定医が行っている業務(関連施設)



- a) 口腔外科手術の全身麻酔・精神鎮静法
- b) 障害者の歯科治療の全身麻酔・精神鎮静法
- c) 歯科治療(抜歯・インプラントを含む)の静脈内鎮静法
- d) 有病者・高齢者の歯科治療時の全身管理(モニタリングを含む)
- e) 在宅歯科治療時の全身管理
- f) 有病者・高齢者の全身状態評価

OB認定医が行っている業務内容



- a) 口腔外科手術の全身麻酔・精神鎮静法
- b) 障害者の歯科治療の全身麻酔・精神鎮静法
- c) 歯科治療(抜歯・インプラントを含む)の静脈内鎮静法
- d) 有病者・高齢者の歯科治療時の全身管理(モニタリングを含む)
- e) 在宅歯科治療時の全身管理
- f) 有病者・高齢者の全身状態評価

II. 分担研究報告

2. 歯科医師の麻酔科研修の実態に関する研究 (歯科麻酔科を対象として)

1) 報告書

厚生科学研究費補助金（厚生科学特別研究事業）
分担研究報告書

歯科医師の麻酔科研修の実態に関する研究（歯科麻酔科を対象として）

分担研究者 海野雅浩 東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科教授
分担研究者 住友雅人 日本歯科大学歯学部教授

研究要旨 歯科医師の麻酔科研修の実態をアンケート調査した。全国29歯科大学・歯学部の歯科麻酔学講座・歯科麻酔科を対象とし、麻酔科研修の実態と当該研修で期待する成果、およびその修得程度を調査した。

A. 研究目的

歯科・口腔外科疾患以外の症例に対する歯科医師の麻酔行為は、医師法に抵触し認められないものであるが、歯科医療の技術向上と国民への寄与を考えたときに、その必要性から研修という限定条件の下で行われてきている。歯科医師の医科における麻酔科研修は、これまでに明確な法的根拠が無く、また研修内容についてのガイドラインが存在しないことから、研修方法や内容は現場の判断に任されてきたのが実態である。

そこで、今後の歯科医療の質的向上及び安全性の確保を推進し、現在、施設毎に異なっている様々な形態、様々な内容の歯科医師の麻酔科研修を統一的なものとするために、関係者のコンセンサスを得、一定条件の下で歯科医師の医科における麻酔科研修を適正に行うためのガイドラインを、法的な整合性、今日までの経緯と現状を踏まえ、社会的な受容を視野に入れつつ医科領域と歯科領域との専門家による共同作業により作成することを目的として本厚生科学特別研究事業が行われた。

この分担研究は、ガイドラインを作成するための基礎データを得る目的で、全国29歯科大学・歯学部の歯科麻酔学講座・歯科麻酔科を対象とし、麻酔科研修の実態と当該研修で期待する成果、およびその修得程度を調査した。

B. 研究方法

全国29歯科大学・歯学部の歯科麻酔学講座・歯科麻酔科にアンケート調査した。調査した項目は以下のとおりである。

- 1) 麻酔科研修の実態
- 2) 当該研修で期待する成果
- 3) 研修内容の修得程度

C. 研究結果

全国歯科大学・歯学部の歯科麻酔学講座・歯科麻酔科
対象：29施設
回収：29施設
回収率：100%

歯科医師の麻酔科研修は、現在、29大学中21施設で行われており、残る8施設のうち5施設は現在中断中とのことで、過去には研修の実績があった。

麻酔科研修に期待する成果は、歯科口腔外科の手術のための全身麻酔に必要な知識と技能の他、歯科外来の高齢者や有病者患者に対する歯科治療時の全身状態評価と全身管理、全身的偶発症や緊急時の迅速な診断と対応などに関連した知識と技能などであり、実際にこれらの項目が研修で修得されたと回答されていた。

これらの知識や技能は、歯科医師の所属する大学病院における教育・研究・臨床に還元されるばかりでなく、日本歯科麻酔学会認定医となって各地域の開業歯科医師となった後も、在宅要介護高齢者や障害児の歯科治療に広く応用されていた。

D. 考察

医科の麻酔科研修を終了した歯科医師は、その後の教育・臨床・研究活動の中で研修で修得した知識や技術を歯科口腔外科の手術のための全身麻酔ばかりでなく、歯科外来の高齢者や有病者患者に対する歯科治療時の全身状態評価と全身管理、全身的偶発症や緊急時の迅速な診断と対応などの面で臨床に還元し、これをもとに歯学部学生や臨床研修医に対する教育が行われ、また研究の基礎となっていた。このようなことのすべてが、歯科医療の安全性と質を向上させるために役立っていると考えられた。

日本歯科麻酔学会認定医となって各地域の開業歯科医師となった後も、在宅要介護高齢者や障害児の歯科治療に広く応用されており、歯科医師の麻酔科研修で得られた成果は、広く歯科医療の安全性と質の向上に貢献しているものと考えられた。

E. 結論

今回の分担研究から、現在、歯科医師の麻酔科研修は広く行われており、研修で得た知識や技能は大学病院の教育・研究・臨床に還元されるばかりでなく、地域の歯科医療においても有効に活用され、広く歯科医療の安全性と質の向上に貢献していることが明らかとなった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

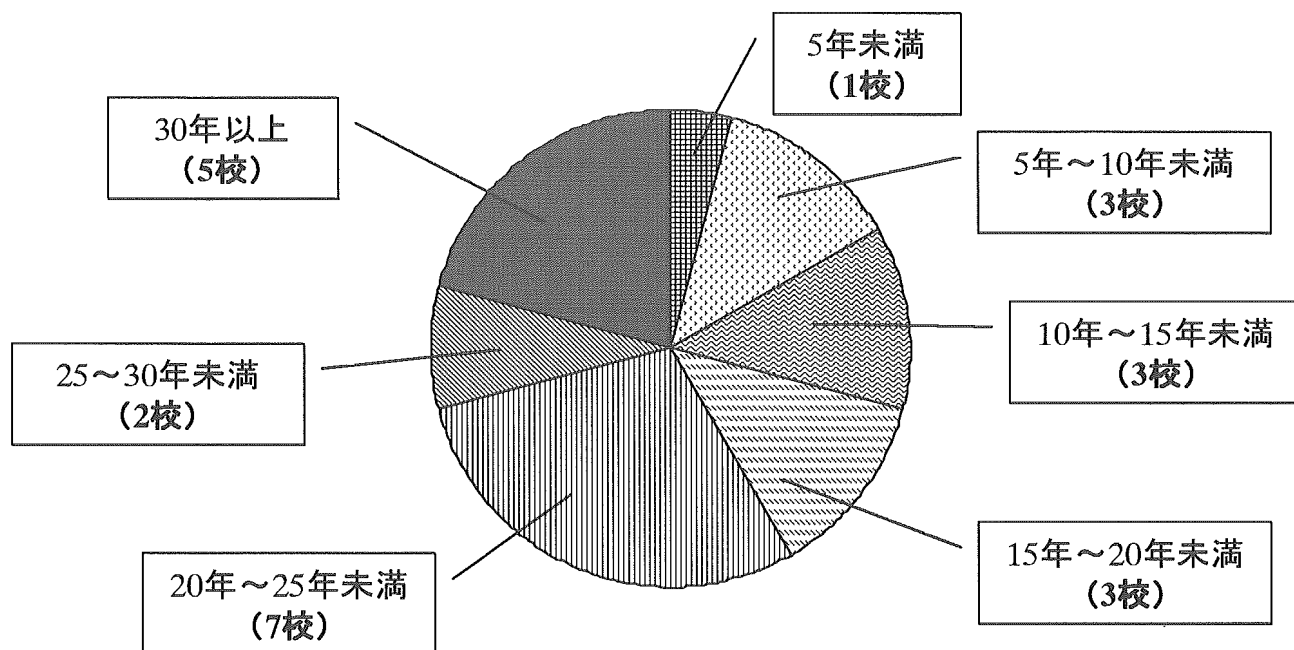
II. 分担研究報告

2. 歯科医師の麻酔科研修の実態に関する研究 (歯科麻酔科を対象として)

2) 資料 歯科医師の麻酔科研修に関するアンケート結果 (歯科麻酔科を対象として)

研 修

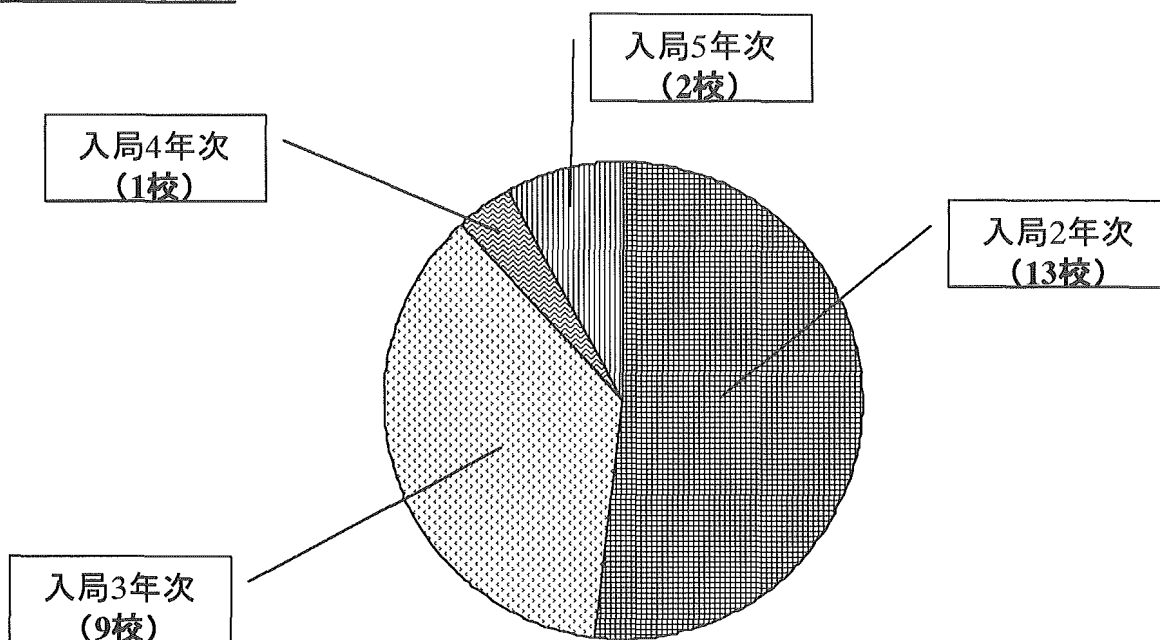
医科の麻酔科での研修を開始してからの年数



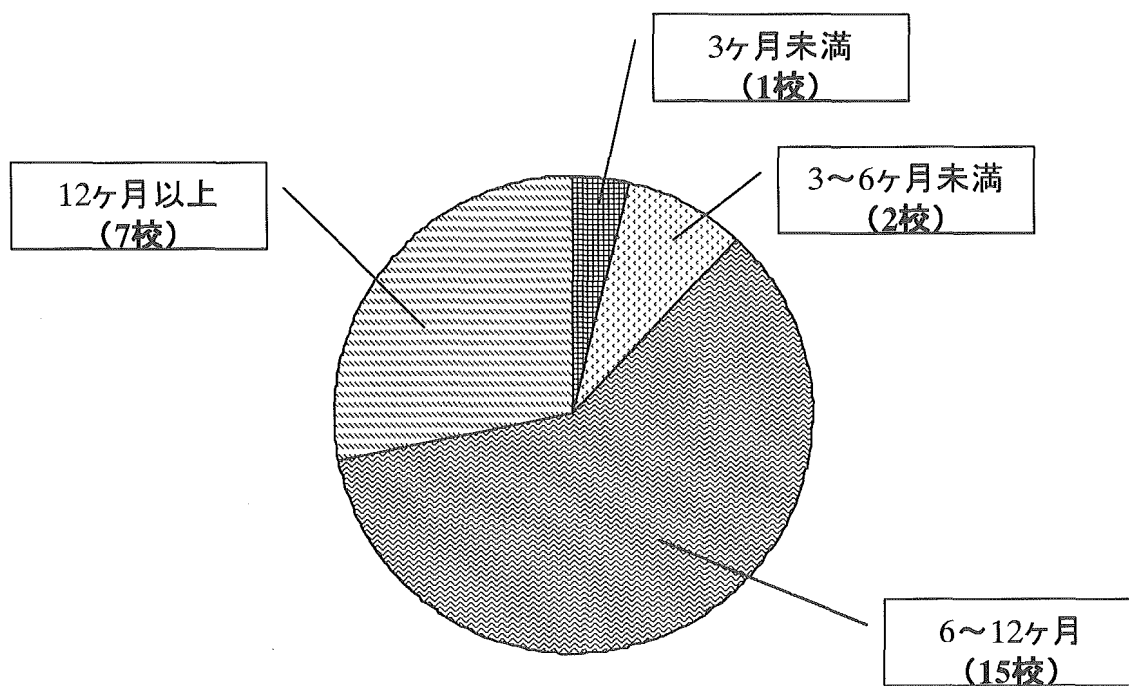
大学名	大学附属病院	総合病院
北海道大学		国立札幌病院
北海道医療大学	記載なし	記載なし
岩手医科大学	岩手医科大学医学部附属病院	
東北大学	東北大学医学部附属病院	国立仙台病院
奥羽大学	東北大学医学部附属病院	千葉県立こども病院 会津中央病院 南東北病院
東京医科歯科大学	福島県立医科大学附属病院	国立小児病院 千葉県立こども病院 焼津市立総合病院
東京歯科大学	杏林大学医学部附属病院	神奈川県立こども医療センター
日本歯科大学	東京大学医学部附属病院	癌研究会附属病院 東京警察病院 町田市民病院
日本大学	日本大学駿河台病院	国立癌センター中央病院
日本大学松戸歯学部	日本大学医学部附属板橋病院	国立癌センター東病院 国保旭中央病院
昭和大学	昭和大学医学部附属病院 昭和大学医学部附属藤ヶ丘病院	
明海大学	埼玉医科大学附属病院	
鶴見大学		けいゆう病院 清瀬小児病院 川崎共同病院 藤枝市民病院 済生会神奈川県病院
神奈川歯科大学	東邦大学医学部附属病院	
☆ 新潟大学	帝京大学医学部附属病院	
☆ 日本歯科大学新潟歯学部	現在行っていない(10年以上)	
☆ 愛知学院大学	研修は行っていない	
☆ 朝日大学	現在、中断中	
☆ 松本歯科大学	研修機関なし	研修機関なし
大阪大学	現在、中断中	
大阪歯科大学		大阪厚生年金病院 滋賀県立成人病センター 大阪厚生年金病院 大阪赤十字病院 京都市立病院 関西電力病院 枚方市民病院
☆ 岡山大学	現在行っていない	
☆ 広島大学	広島大学医学部附属病院(現在、中断中)	
徳島大学	徳島大学医学部附属病院	
九州大学		聖マリア病院
九州歯科大学	産業医科大学附属病院	小倉記念病院
福岡歯科大学		聖マリア病院
長崎大学	長崎大学医学部附属病院	
鹿児島大学	鹿児島大学医学部附属病院	

※☆印は現在研修を行っていない又は中断している大学 ※★印は研修機関がない大学

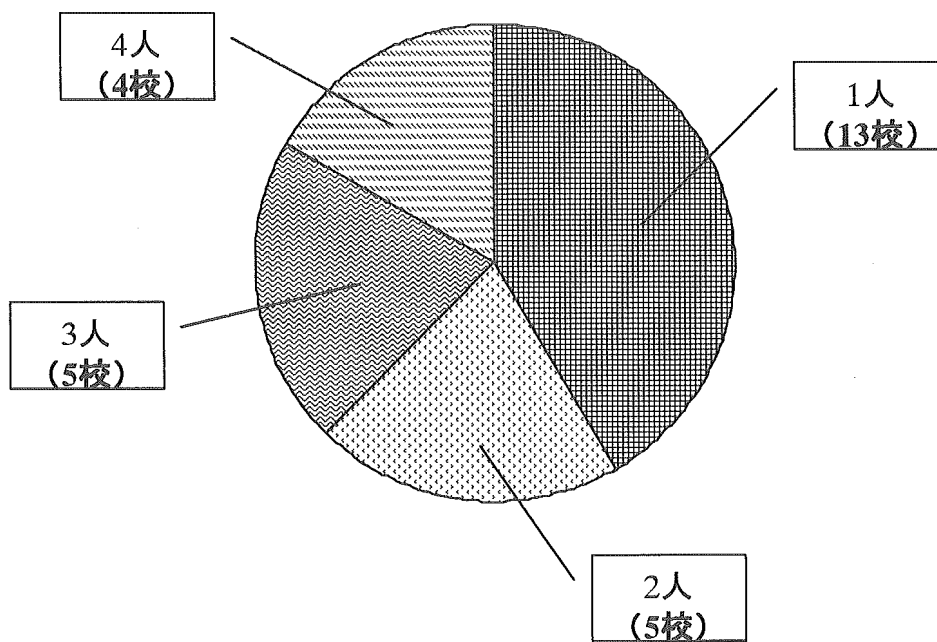
研修開始年次



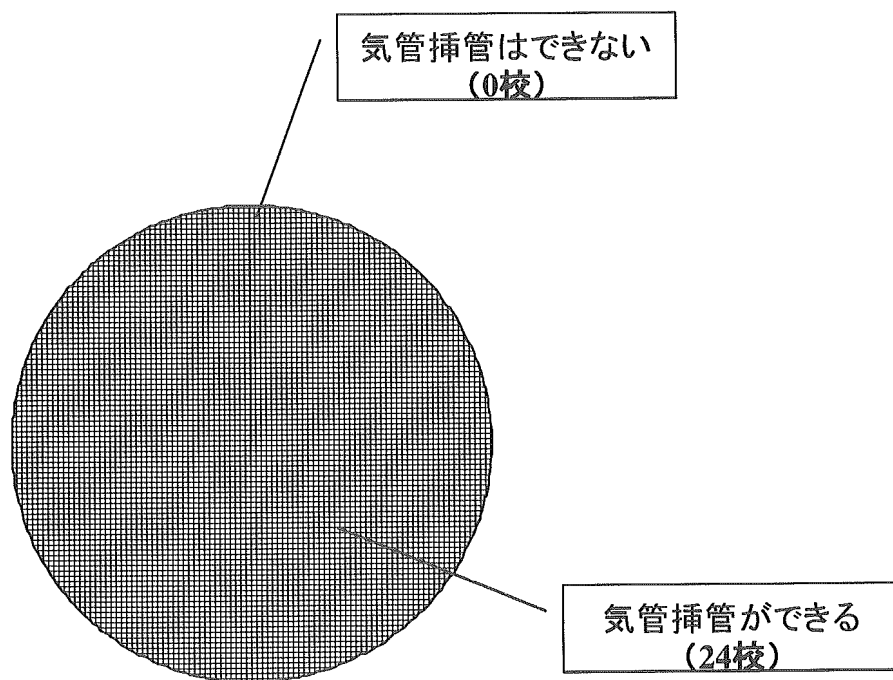
研修期間



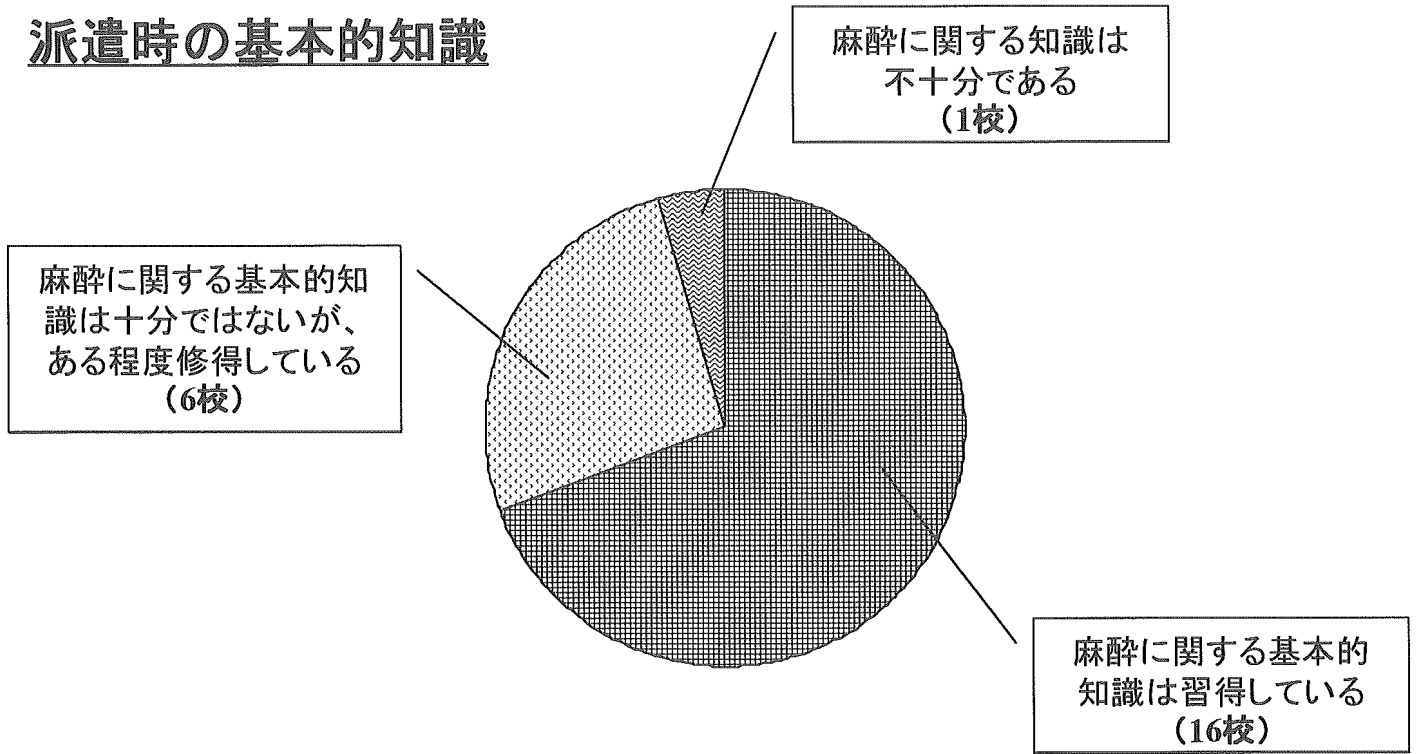
派遣人数



派遣時の基本的技量



派遣時の基本的知識



麻酔に関する知識は
不十分である
(1校)

麻酔に関する基本的知識は十分ではないが、
ある程度修得している
(6校)

麻酔に関する基本的知識は習得している
(16校)